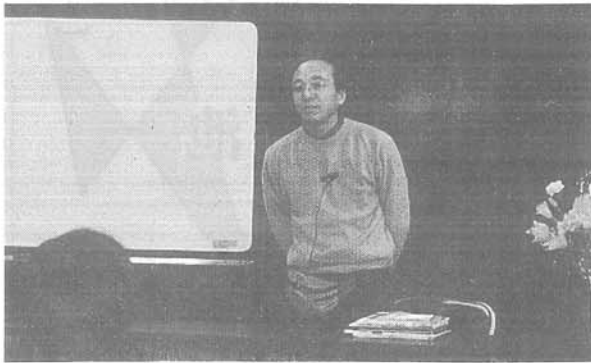


としょかん宇治

No. 31

1993年12月1日発行
宇治市中央図書館
〒611 宇治市折居台1-1
0774 (20) 1511

宇治市東宇治図書館
〒611 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (32) 2232



講演中の岩城敏之氏

十一月十五日、東宇治図書館は開館一周年を迎えました。これを記念して、さる十一月二十六日に講演会を行いました。講師は絵本と玩具を研究されている岩城敏之氏で、テーマは「絵本がなくても

一周年を迎えた東宇治図書館 十四万冊余を貸出し、予約も好調

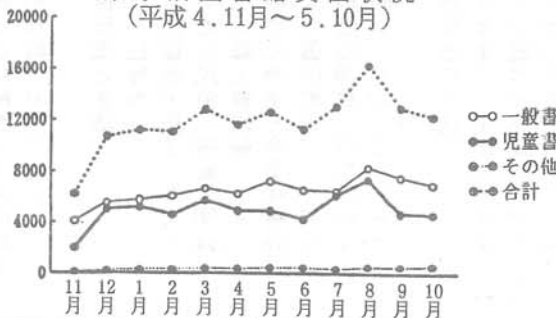
子供は育つー絵本をあたえる本当の意味」。この刺激的なテーマに熱心なお母さん方が集まり、絵本とは何かについて耳を傾けました。

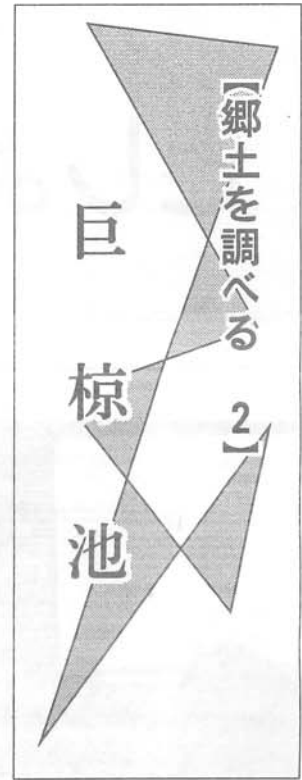
さて、中央図書館の分館として、東宇治地域に開館した東宇治図書館は、十月末で延四万四二〇五人の方に一四万三七六一冊の本を貸し出しました。新しく登録された方は二四三人です。土日曜日の貸出は千冊を超えることもあり、利用のほぼ九割までは五ヶ庄、木幡地域の方です。

蔵書二万冊でスタートした分館では中央館とオンラインで結ばれたコンピュータを活用し、予約すれば中央館にある本も東宇治館で借りられるなど、一冊でも多く、求める本に出会っていただくよう努めてきました。また、子どもたちが本と親しむようにとの思いで始めた、「おはなしかい」も、毎回三十人程の参加をいただいています。

貸出券が共通で、市のどの図書館でも貸出、返却できるシステムは好評で、中央館、そよかぜ号、東宇治館をそれぞれ生活サイクルと読みたい本によって、複数館利用をされている方も増えています。東宇治図書館は、中央館を利用しにくい地域の方が一人でも多くの人に本との豊かな出会いをこの願いをこめて、魅力ある図書購入とサービスの向上に心がけたいと思います。

東宇治図書館貸出状況
(平成4.11月～5.10月)





宇治市の地図を拡大してみると、市内の西北部に「巨椋池干拓地」と書かれた広大な場所があります。ここは巨椋池とよばれる大池があったところで、古くは宇治川と桂川それに木津川の三河川が直接流れこんで巨大な遊水池を形成していました。その頃の宇治市西部は、ほとんど池の中で、向島と槇島は文字通り池中の島でした。

この大池は安土桃山時代、豊臣秀吉によって大規模な改造がなされました。太閤堤と称される多くの堤防が池の周りや池中を横断して築かれ、池は河川から切り離され、四つに分割されました。

巨椋池は古くは水上交通の中核として、改修後、堤防は交通路として、池は漁業や鳥獣それに舟による遊客などで賑わいましたが、昭和八年から始まった干拓事業によりその姿を消し、昭和十六年に干拓新田となりました。その後、

東南部を中心に住宅地化が進み、現在に至っています。

■ 全般的なもの

巨椋池干拓誌 昭和37年 K六四

巨椋池の変遷、動植物、人文環境を詳しく記述したのち、干拓事業を記録したもの。巨椋池に関する不朽の名著である。昭和56年に再版された。

巨椋池 宇治市歴史資料館 K六四
漁師仲間関係史料により、近世の巨椋池をめぐる歴史を中心に干拓までを記述。

■ 巨椋池の自然地理

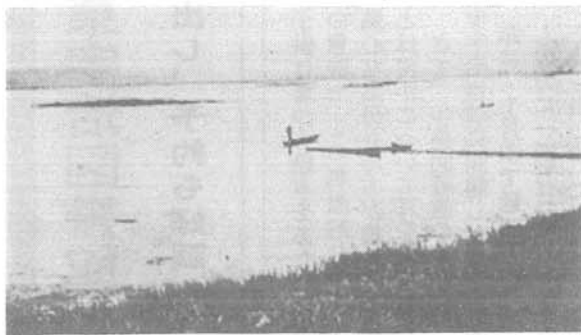
巨椋池の地理 (巨椋池干拓誌 P二五―三七)

■ 巨椋池の動植物

(巨椋池干拓誌 P二四―二五)

■ 巨椋池の変遷

巨椋池の変遷



干拓前の巨椋池 (巨椋池の変遷より)

(巨椋池干拓誌 P三一―三六)
巨椋池沿岸交通の変遷

(巨椋池干拓誌 P二九―三三)
歴史・文学に現れたる巨椋池

(巨椋池干拓誌 P三四―三五)

巨椋池周辺の開拓 (古代)

(宇治市史1 P三三―三七)

巨椋池周辺と微地形 (中世)

(宇治市史2 P七七―八〇)

築堤と旧流路 (中世)

(宇治市史2 P五七―五九)

巨椋池をめぐる堤 (中世)

(宇治市史2 P五九―六二)

大池争論 (近世)

(宇治市史3 P三八―三三)
太閤堤と巨椋池 (久御山町史1
昭和61 P四八―四六)

■ 巨椋池と生活

生活と巨椋池 (巨椋池干拓誌 P二六―二九)

巨椋池の民俗 (展覧会図録)

山城郷土資料館 平3 K六四

巨椋池の漁業・漁業補償問題

(久御山町史2 P七七―八〇)

巨椋池の漁具 (京都府の民具3
昭54 P六―三三 K三三)

■ 巨椋池の干拓

干拓事業・干拓に関する諸記録

(巨椋池干拓誌 P四一―七六)

巨椋池の変遷 (写真集 16頁)

巨椋池土地改良区 昭46 K六四

巨椋池の干拓 (久御山町史2 平成1 P五〇―五三 K三三)

巨椋池干拓と干拓地開発の諸問題

(南山城の歴史の景観 昭和62 P一〇―三三 K五二)

巨椋池の干拓事業 (淀川百年史
昭和49 P七一―七三 K三七)

■ 児童向けのもの

わたしたちの宇治 4・5年

昭和61 P六一―七 児童元

南山城子ども風土記

昭和54 P一―五 児童元



そよかぜ号で実習をする
宮下さん

図書館へようこそ

利用者にインタビュー

第18回

宮下純子さん

宇治市中央図書館には毎年数名の方が実習に来られます。そこで今回は、その五日間の感想などを伺ってみました。実習を終えられたのは、広野町にお住まいの宮下純子さん。大学では法律を勉強中の四年生です。

☆実習はいかがでしたか。

授業で学んだ事を具体的にわかったのが収穫でした。例えば、リクエストされた一冊を提供する迄に

はかなりの手間がかかりますし、何より、書架整理はとてもしんどい仕事だと骨身にしみました。☆図書館の勉強を始めたきっかけは何ですか。

学芸員の資格を終了し、司書の資格も思ってた始めました。図書館学はデータベースの利用、索引の引き方など実際に活用できる内容が豊富でとてもおもしろいです。利用者の立場で資料を検索する時にも大変役立ちました。

☆この図書館の感想を：

図書館の事を勉強するようになって、大活字本、対面朗読などのいろいろなサービスに気付き、仕事の奥行きを深さを感じました。☆日頃利用されて、専門分野の資料についてはいかがですか。

探している本は大抵見つかります。大学図書館は学術的な難しい資料が多く、本当に勉強しようとした時すぐに役立つ本があるのはうれしいです。ただ、判例集が少ないのが残念です。カウンターに尋ねた時も親切に対応してもらい、気軽に聞ける雰囲気です。☆どうもありがとうございました。

また気軽に利用して下さいね。はい。これからも法律の勉強を続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

折々
NEWS



中央図書館では読書週間を記念して十一月十七日に、ユニークな方言研究書「全国アホ・バカ分布考」の著者、松本修さん（朝日放送テレビプロデューサー）を招いて講演会を開催しました。松本さんは担当番組「探偵、ナイトスクープ」で視聴者の協力を得て完成させた「アホ」「バカ」方言の全国分布図を片手に、ひとつの言



講演中の松本修氏

探偵ナイトスクーププロデューサー
松本修さんを招いて
講演会

葉が京都を中心にして波紋を描くように伝播していったという学説（方言圏論―柳田国男説）が、今回のアホ・バカ調査で立証できましたと具体例をあげながら説明されました。

都の古語がやはりすたりを繰り返しながら各地に旅立ち、少しは形をかえながらも連綿と語りつがれてきたのだというお話に、参加された方々も、それぞれのお国ことばを思い出し、日本語のふところ深い歴史に感銘を受けられたようでした。

「源氏物語と平安文学」
の図書展示を実施

「源氏ろまん'93」の一環として十月四日から二ヶ月間、源氏物語に関する図書展示を行いました。

第三回目の今年のテーマは、「源氏物語と平安文学」で、女性作家が筆を競った平安文学と、雅やかな平安貴族文化を知るための広範な図書、約千点を随時入替えしながら展示しました。

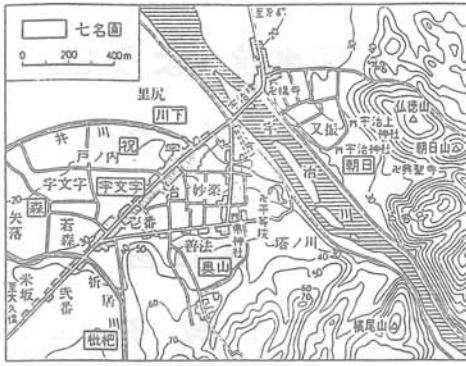
十一月十四日の紫式部文学賞受賞式には、「十六夜橋」で受賞された石牟礼道子さんの作品も展示し、来館者の関心を呼びました。

郷土のはなし

宇治の七名園

もり祝宇もじ川しも奥のやま
ふもとの朝日琵琶を弾くなり

これは宇治郷の七名園を詠んだ歌です。七名園とは、森園・祝園・宇文字園・川下園・奥ノ山園・朝日園・琵琶園の七つの茶園で、場所は図のような位置にあったと推定されています。宇治茶は鎌倉時代に明恵上人によって伝えられたとされており、それ以降、発達していき、十五世紀中頃には、日本一の茶として有名になります。そしてその名声は今日までつづいて



います。宇治茶の中でも特に七名園から採れた茶は、銘茶とされてきました。

ところで、七名園はいづろから言われるようになったのでしょうか。室町時代末期から江戸時代初期に書かれたとされる『儒林』には、七名園の名がみえ、また、江戸時代にできた『雍州府誌』には、室町幕府三代将軍足利義満が大内義弘に命じて、宇治郷に茶を植えさせ、これが七名園になったとその由来まで記されています。ただ由来については、後世の人が宇治茶に権威をもたせるために作られたものと思われませんが、七名園の呼称は、おそくとも十六世紀後半から十七世紀前半には存在していたことは事実でしょう。

しかし、慶安二年(一六四九)に淀藩主永井尚政によって興聖寺が創建されますが、この地は朝日園があったため、この茶園の大半が破壊されました。また明治以降に、発電所や工場の建設、鉄道の敷設、宅地の開発などで徐々に茶園が失われ、現在では、七名園と呼ばれる地には、茶園がほとんど残っていません。七名園のお茶がどのくらいおいしかったか、味わうことができないのは、残念です。

編集後記

◆今号では、郷土を調べるシリーズ第2回めとして、巨椋池を特集しました。

宇治市西北部に大きく位置していた巨椋池。巨椋池干拓誌の中には、たくさん魚や鳥が生息していたと書かれています。

図書館では郷土の資料を参考資料室に集めています。その資料を参考にして、巨椋池の昔の姿を想像されるのもいかがでしょうか。

◆読書の秋もあっという間に過ぎ、木枯らしが吹く季節になってしまいました。

こたつで読書もこの季節ならでは、いいものですよね……。

本をかりるには

一 利用案内

- ・市内にお住まいの方、市内に通勤通学されている方ならどなたでも1人5冊、かりられます。
- ・貸出券は、中央図書館・東宇治図書館・移動図書館の共通券です。

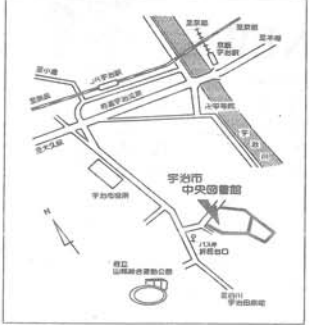
中央図書館・東宇治図書館

- ・貸出期間は、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- ・月に市内25カ所を巡回しています。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- ・次回巡回日に返却して下さい。

中央図書館



東宇治図書館

